

## 亜細亜友之会留学体験

余文清

皆さんこんにちは、私は院Bクラスの余文清です、2022年6月に中国の大学を卒業し、同年7月に亜細亜友之会外語学院に留学しました。入学から半年で一橋大学大学院経済学研究科と早稲田大学大学院経済学研究科に入学し、大学院受験の準備をしながら、充実した学校生活を満喫してきました。私の試験準備の経験と留学生活を皆さんと共有できることをとても嬉しく思います。

私は最初から大学院進学を目指して日本に来たので、大学院クラスのある亜細亜友之会外語学院を選びました、クラスには同じ志を持った友達がたくさんいて、自然と学ぶ雰囲気がとても濃いです。また、クラス担当の先生が入学指導や面接練習もやって下さったので、練習を繰り返すことで私のたどたどしい日本語を面接に耐えられるレベルまで磨くことができ、タイトな試験日程の中で、とても助かりました。次に、私の受験体験を簡単に紹介したいと思います。

私は学部で経済学関連を専攻しており、大学院ではさらに勉強を続けるために経済学研究科の入試の準備をしていました。現在の日本では、経済学と経営学が人気の科目であり、経営学はマーケティングや組織行動など企業の意思決定理論に偏っていますので、専攻を変更する学生や日本語の基礎がしっかりしている学生に適しています。経済学は理論モデルと経験的データ分析に偏っており、高学位を取得した学生や数学と統計の背景を持つ学生に適しています。私が志望した経済学部は日本語と英語の両方のスキルが求められており、ほとんどの学校では日本語N1とTOEFLまたはTOEICのスコアがあれば基本的な出願資格を満たせますが、各研究科の公式サイトの例年の募集要項を確認すれば事前に準備することができます。私自身、中国にいた頃から語学学習を始め、2022年冬の大学院入学試験に備える為、来日後7月に日本語能力試験、8月にTOEFL試験を受験しました。その後、研究計画書と専門科目に集中しました。

専門科目や研究計画書に関しては、日本の参考書を読むことが非常に必要だと思います。経済学は主にミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の3つの側面から研究されます。日本市場に流通している参考書で出題の範囲はほぼカバーできると思いますが、個人的には奥野正博氏の『ミクロ経済学』、二上宏一氏の『マクロ経済学』、西山義彦氏の『計量経済学』がおすすめです。また、研究計画書はインスピレーションを得るためにより多くの文献を読む必要があり、国立図書館のリソースを有効に活用することができ、優れた研究計画書は教授を惹きつけ、入学試験で有利になります。

亜細亜友之会外語学院は東京都北区に位置し、交通の便が良く、各種博物館の展示会や大学のキャンパス祭、市内のお祭りなどに行くのに大変便利です。学校には法定休暇のほかに春休み、夏休み、冬休みがあり、この期間中は遠方への旅行に出かけたり、自宅でゆっくりしたりすることができます。それだけでなく、学校ではアクティビティも頻繁に企画されています。クリスマスには、衣装に着替えて写真を撮ったり、クリスマスパーティーを用意したり、定期的に茶道や着物体験活動を行ったり、着物の先生を招いて着物の種類や着方の説明や実演を行ったりするなどの行事も行っています。学生全員が実際に着物を着たり、和菓子を味わったり、日本文化の雰囲気を感じる機会があります。

最後に、日本の起業家である稻盛和夫氏の『京セラフィロソフィ』の一文を引用したいと思います。「常に自分自身のもつ無限の可能性を信じ、勇気をもって挑戦するという姿勢が大切です」。自分の可能性を信じ、勇気を持って始めれば、一生忘れられない貴重な経験が得られるでしょう。